

## 第 66 回 杜の都の環境をつくる審議会 議事録

日 時：平成 25 年 11 月 5 日（火）14 時 30 分～17 時

会 場：市役所本庁舎 2 階 第一委員会室

出席委員：涌井会長，板橋委員，大山委員，小貫委員，小畠委員，近藤委員，塩谷委員，瀬上委員，米倉委員，渡邊委員（計 10 名）

欠席委員：中静副会長，清和委員

事務局：建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，公園課長，百年の杜推進課企画調整係長，同緑化推進係長，同緑地保全係長，公園課主幹兼海岸公園整備室長，同施設管理係長，同建設係長，総務企画局プロジェクト企画課長（計 11 名）

司 会：武者課長

### 次第

#### 1. 開会

○事務局（武者課長）

－配布資料の確認－

#### 2. 会長・副会長の互選

○事務局（武者課長）

－会長・副会長の互選－

○涌井会長

－挨拶，議事録署名人の指定－

#### 3. 議事

##### (1) 報告事項

##### ① 保存緑地の今後の方針について

○事務局（鈴木係長）

－資料説明（資料 1）－

○小貫委員

- ・平成 9 年にグリーンプラン，11 年に百年の杜づくり行動計画，昨年度緑の基本計画を策定したという説明があったが，3 つの計画はそれぞれパラレルで今も走っているのか，それとも昨年度策定した緑の基本計画のみか。

○事務局（鈴木係長）

- ・昨年度策定した「仙台市みどりの基本計画」のみである。

○小貫委員

- ・新たに保存緑地とする予定の場所があれば教えて欲しい。

○事務局（鈴木係長）

- ・保存緑地は条例に基づく制度であるが，都市緑地法にも同様の規制をかけるような制度があり，新規の場合はそちらで指定することを考えている。

○涌井委員

- ・百年の杜づくり推進基金は土地の買取り制度の原資ということだが，この基金の状況を教えて欲しい。

○事務局（鈴木係長）

- ・百年の杜づくり推進基金は、寄付や仙台市の財源を積み立ててきたもの。近年、財政状況が非常に厳しくなり、保存緑地の買い取りだけでなく他の事業でも使っており、目減りしている状況である。

○事務局（遠藤部長）

- ・百年の杜づくり推進基金は、もともと百杜基金から保存緑地を買い取るために積み立てた基金である。平成10年、保存緑地の買い取り基金約100億円、緑化を推進する基金約20億円、合わせて120億円ほどを市の財源から積み立てた経緯がある。
- ・近年の財政状況により、保存緑地の買い取りのほか、緑に関連する公園事業等でも使ってきたため、現在は30億円程度というところで推移している。
- ・近年は保存緑地の買い取りに国の補助事業を採用しているため、市の持ち出しはだいぶ少なくなっている。

○涌井委員

- ・仙台市はかなり先行的にこの事業を始め、国の法律が後から追いかける形だった。都市緑地保全法の改正により、その中である程度のことのできる状況に変わってきた。

○板橋委員

- ・震災後、基金の使われ方に変化はあったか。

○事務局（岡田係長）

- ・震災後、特定の事業が増えたということはない。復興に関連する植樹等にも充当されているが、基金の用途は、百年の杜づくりに資することと限定されていることもあり、使用額的にも急に増えているという状態ではない。

○大山委員

- ・13ページ下方に「届出行為に関し勧告、行為の禁止もしくは制限または中止を命ずることができる」とあるが、そのような命令をしたことはあったか。

○事務局（鈴木係長）

- ・平成20年に1件あった。「仙岳院保存緑地」で違法伐採がなされ、その際に中止命令と刑事告発をした。

○涌井委員

- ・まだ判決は出ていないのか。

○事務局（鈴木係長）

- ・相手方が罰金を支払うということで完了した。

○小貫委員

- ・そういった場合、後に緑の復元など何か計画はしているのか。

○事務局（鈴木係長）

- ・当時の告発の相手方から、現在はマンションの開発事業者に移っている。マンション建設に当たり、緑化計画を仙台市が協議する仕組みがあり、かつて保存緑地で樹林地があったときの緑被、樹林地率約35%を何とか確保してもらうよう協議を行っている。

○涌井会長

- ・仙台市では、貴重な緑を守るため、大変早い時期からこうした制度を実現してきた。昭和48年以降、実態が相当乖離してきている面があり、今後これをどのように運用していくのか、また保存緑地の指定を解除する可能性もあり、都市緑地法との絡みの中でどのように内容を決めていくのか次回以降の審議会で整理をして議論を深めていきたい。

## ②東部地域における緑の復興について

○事務局（小窪係長）

－資料説明(資料2)－

○小嶋委員

- ・東部地域とは、宮城野区・若林区という捉え方でよいのか、またはイメージとして海岸側ということで捉えて東部地域と名称を付けているのか。
- ・資料2の左下のイラストに「海岸防災林復旧（林野庁）」と「海岸公園災害復旧（仙台市）」を合わせた矢印があるが、連携等何か具体的に目指しているものはあるか。

○事務局（小窪係長）

- ・東部地域については、ゾーニングイメージで着色したエリアを想定している。荒井や背後地の区画整理などがある「近隣の杜ゾーン」が縁辺地となっているが、津波浸水の影響を受け、緑の再生を図っていくところを広くとっている。
- ・植樹の中心は海岸公園のエリアを想定しているが、人が住む「居久根の杜ゾーン」や「近隣の杜ゾーン」などに整備される公園についても、市民参加の植樹事業を積極的に取り入れていきたい。
- ・海岸公園では、林野庁の海岸防災林復旧事業や海岸公園災害復旧工事が並行して進められていくので、そちらと連携していく。
- ・植樹はまず施設整備エリアを中心に取り組んでいきたい。

○涌井会長

- ・このエリアには国土交通省の一線堤の事業、林野庁の海岸防災林の再生事業、貞山堀の復旧事業と一部環境省の事業が重複して入っている。マツの純林で再生を図ろうとしている林野庁の部分と、多岐な樹種を検討する余地があると考えている部分が分かるように、海岸から断面図で示していただきたい。

○事務局（小窪係長）

- ・各々の守備範囲を想定した事業になっており、植樹事業は施設整備エリアを考えているが、そのようなところも相容れるような形が望ましいと思っている。そのような分かりやすいイメージ図も作っていきたい。

○瀬上委員

- ・参加方法に「植える」「支える」「育てる」とあるが、活動するためには専門知識を持った方と市民代表のリーダーが必要だと思う。そういう方の育成と市民団体のリーダーとの連携は考えているか。

○事務局（小窪係長）

- ・そういった方々が、活躍しながら市民を引っ張っていくようなあり方を理想として考えている。現在17団体指定している緑の活動団体や「特定非営利活動法人 冒険あそび場」など多様に活動されている団体や先行して緑の復興に取り組んでいる方や団体とも連絡を取り合い、協力いただきながら進めていきたい。

○瀬上委員

- ・リーダー同士の横の連絡がないとこういう事業はうまくいかず、全体的に盛り上がるのは難しいと思う。横の連携ができる会のようなものはあるか。

○事務局（小窪係長）

- ・事業が体系化されたら広報活動等にも力を入れてこの事業を周知する。参加希望あれば積極的にヒアリングし、場合によっては説明会等も開催する。
- ・緑の活動団体については、年2回、定期的に交流会を開き、連絡も取り合っている。先月の交流会でこの事業について相談したところ、かなり前向きな好意的な感触を受けた。このよ

うな団体は独自のネットワークも持っており、そちらへの広がりも期待している。

#### ○板橋委員

- ・この緑の復興の構想はどのぐらいのタームで実現していくのか。
- ・ゾーニングイメージの中に「～企業の杜」とあるが、これらはネーミングライツ権を売買するような形で、資金の一つとして活用していくというイメージはあるか。
- ・仙台市が展開している百年の杜構想に関して、一部の団体等には訴求されているが、本当の意味で一般市民全体にはあまり知られていないという印象を受けていた。緑の復興構想に関しても、これまでとは違う観点の広報のあり方を工夫すべき。
- ・あくまで 106 万市民とうたっているが、例えば遠方からも参画していただき、自分たちが植樹したものがどう育っていくかということを見届けるような、開かれたイメージも持つべきではないか。

#### ○事務局（小窪係長）

- ・事業期間について、資料 2 の左上の黄色い矢印に「継続的な取り組み」と青字で書いてあるが、この継続的な取り組みというのは、10 年 20 年では終わらず、木々が育っていく 30 年 40 年、さらに木の成長後も公園として利用されていくことまで考えると、百年の杜の事業のような長いスパンになると思う。
- ・これから海岸公園の災害復旧工事が始まるところであり、2～3 年後から本格的に植樹がスタートする。そのとき植えられた苗木が育っていく期間と併行して、この事業が継続するだろうと考えている。
- ・現時点でネーミングライツ権の売買は積極的には考えていない。公園内の行為許可等の現行制度の中で、善意ある活動がなされればいいと考えている。
- ・広報活動について、皆さんの関心が被災地である沿岸部に寄せられている状況があり、そういった方たちの善意をダイレクトに受け入れることができるような形で事業の紹介をしてきたい。
- ・市外の方の受け入れについて、基盤整備の完了に伴い、受け入れられる要素が出てくる。木を植える適期があるので、時期の調整、現場の調整、樹木の調整等を重ねて、受け入れられる仕組み作りも考えていきたい。

#### ○大山委員

- ・沿岸部は立地により植生が様々に異なる。立地や植生タイプ別の植栽後のモニタリングも考えているのか。

#### ○事務局（小窪係長）

- ・（林野庁事業区域である）海岸保安林内の植樹は、現段階で考えていない。基本的に市民参加で手植えできる施設整備エリアの植樹と、それを維持管理活動の一環として育てること等を想定している。
- ・海岸林の形成に伴い環境系のガイドなどが行われ、それに参加する市民によりその植生の調査の取り組みもできれば、そのようなバリエーションが広がる余地もあると考えている。

#### ○大山委員

- ・沿岸部の生物多様性の確保という視点からも、モニタリングをして、現在の植生がどのように推移して成立していくのかを見ていくことは、大切なことだと思う。

#### ○米倉委員

- ・沿岸部を活動場所にしているが、エリアごとのしがらみや、市民協働でやろうとしても、現場と行政側のコーディネートをしないうまく繋がらない。それらをコーディネートする力が必要である。

- ・木を育てるには、長い時間がかかる。木が育つ様子を子供たちに見せながら、こつこつと活動が続けていくことが大事だと思う。この計画がずっと繋がっていくように、人も育てていかなければいけない。

○事務局（遠藤部長）

- ・緑の復興について、具体的な中身を織り交ぜながら構想の説明をした。この件は、メモリアル検討委員会でも検討しており、いただいたご意見をもとに今後具体的な内容を固めていく。
- ・植樹のベースは数年後にできる予定であり、それに合わせてスケジュールを組んでいく。

○渡邊委員

- ・「居久根の杜ゾーン」で「居久根」という言葉を使っているが、居久根のような効用が発揮されるような緑をイメージしているのか。報告事項 1 で、仙台市は緑の質にも着目しているという話があったが、そのような観点で議論の進め方を決めてしまうより、どういう木をどう植えたらいいかというところから議論を始めた方がいいと思う。
- ・どうしても拠点整備的なイメージ図になると思うが、植樹会場があちこちに散在しているだけでは不十分だと思う。これらが例えば線として繋がっていくとか、地域によっては農と繋がっていくとか、点から線、面へと広がっていくようなイメージがあってもいいのではないかな。

○涌井会長

- ・これから市民に訴えかけていくに当たり、今いただいた意見をこの事業設計の中にしっかり織り込んで欲しい。
- ・目標として示されるイメージを共有することはとても大事である。将来の仙台市の海岸部の百年の杜のイメージの大体の方向性をイメージ的に示して欲しい。
- ・特に蒲生干潟を含めた干潟など、震災による津波により前の種子が復活して、今まで想像もできなかった絶滅危惧種が戻ってきている場所がある。将来のために、これらの取り扱い方針などを議論し、事業設計の中に織り込んでいただきたい。

### ③高砂中央公園の基本計画について

○小貫委員

- ・4 計画に入っている機能は、どうやって決まったのか教えていただきたい。例えば野球場では、既存の野球場との関係やここに 2 面整備する必要性。テニスコートでは、ここに 8 面整備する必要性。特にここでデイキャンプする人がいるのかと思う。

○事務局（福與係長）

- ・平成 3 年度の仙台港背後地土地地区画整理事業の都市計画決定後、平成 5 年度にこの公園の都市計画を決定している。その時に必要な機能のある程度整理しており、運動施設をメインに据えた計画となった。当時は陸上競技場等も検討はされたが、その後の社会情勢や他の地域での運動場の整備などを踏まえて、今回必要なものとして、野球場 2 面と、テニスコート 8 面を計画した。
- ・デイキャンプ場は、今市内でデイキャンプ場がある公園は、水の森公園と、震災で今はないが海岸公園の 3 箇所である。非常に人気のあるスポットで、今回総合公園の機能の一つにデイキャンプというのを据えており、例えば野球場やテニスコートを子供たちが利用した際に、保護者の方がそこで食事を作って待っているというような活用がされるのではないかと期待している。

○小貫委員

- ・水族館が入ったことで、この公園の位置付けが大きく変わったと思うが、そこでの機能の再

検討はしなかったのか。

○事務局（福興係長）

- ・以前の計画では、野球場・テニスコート・パークゴルフ場がかなり面積を占めていたので、今回は適正な規模を確保しつつ、多目的広場を多くとるようにしている。また、水族館に隣接する箇所に多目的広場を配置するなど見直している。

○涌井会長

- ・前回この計画については相当議論している。
- ・例えば水族館については、頻繁に更新があるので、バックサイドがないと支障をきたすことや目的を限定したスポーツ施設が多い等について言わせていただいた。
- ・パブリックコメントでも同じような意見が出てきて、こういう形に収まったという話だと思う。今後の設計に資するご意見があれば、頂戴したい。

○小貫委員

- ・杜というコンセプトでつくるということだが、全体的に杜のイメージが弱い。一方で水族館と多目的広場の間は杜で区切られている。水族館と多目的広場の間のデザインをご検討いただきたい。また、バックネットなどの関係で、野球場2面がこういう形で、試合が成り立つのかというところはすごく気になる。

○事務局（福興係長）

- ・杜についてだが、水族館との間の植栽は、水族館側ではイルカプールが整備されるということがあり、野球場での音などが水族館側に影響しないように配慮して、樹林地を設けている。もう少し東側は、水族館との調和を考えた計画としている。
- ・また、西側にある樹林地が高速道路のランプに隣接して盛土をしているため、3mくらい高くなり、東側から見ると樹林地が公園を囲んでいるように景観上見える。また、杜という言葉については、樹林だけではなく、利用による多様な交流も含めてとらえている。
- ・野球場については、バックネットはもちろん必要なので、西側にバックネットを設置する予定である。多目的広場との間に可動式のフェンスを設置するなどの安全対策についても今後検討を行う。

○板橋委員

- ・この公園にどういう年齢層を惹き付けようとしているのか、もうひとつあいまいである。
- ・スポーツ施設という面からも、多目的広場は、「多目的」とつくると一見良さそうだが、何にも使い手がないという側面も持っている。例えばスポーツ施設的な機能をより持たせたいのであれば、あまりスペースを取らないバスケット・ボールの3on3のコートを設けるなど、公園としての特徴をつける方法もあると思う。
- ・デイキャンプ場については、むしろ持ち込んだお弁当をちょっと休んで食べられる四阿（あずまや）のようなものを随所につくる必要があるのではないか。せっかくデイキャンプ場をつくっても、使われないまま違う用途になっていく可能性もある。
- ・男性、女性、様々な年代層が興味を持ってこの公園に足を運んでもらうというイメージ付けを加えていけばよいと感じる。
- ・カフェなど、水族館から出てきた後や散歩した後に、お茶を飲んでくつろげるような施設を設ける予定はあるのか。

○事務局（福興係長）

- ・総合公園ということで、特定の年代に特化した公園ということは考えていない。各世代の方に楽しんでいただける公園にしたいと考えている。
- ・他の施設は目的が特化した施設になっているため、多目的広場は逆に、自由に子供たちが走

り回ったり、水族館に来た小学生の団体などがここでシートを敷いてお弁当を食べたりと、多様な活用が出来る場所として、整備していきたいと考えている。

○事務局（佐々木課長）

- ・カフェのように民間の活力を導入して、営業していただくことについては、上手く成り立つかという問題もある。
- ・そういう事例が全国で出てきているが、実際に商売になるかという問題とそれを許可する際の方法など、色々なハードルがあるので、それを詰めながら、将来的に可能かどうか検討していく。
- ・例えば管理事務所の一角にそういう売店機能を持たせることもあるが、なかなか成り手がいない。公募しても意外と手を挙げてもらえず、挫折している経験もある。公園周辺にそういう施設があつて、民業圧迫であるとか、公園外で買って持込むので、売れないということもある。
- ・四阿については、基本設計でもう少し内容を細かく詰め、大きさや数を決めていきたい。またトイレも落とし込んでいるが、足りないという声もあり、水族館との兼ね合いもあり、数や仕様については、詰めていきたい。

○米倉委員

- ・デイキャンプ場も含め、全部有料施設なのか。

○事務局（佐々木課長）

- ・公園全てが有料施設ではない。
- ・今までの水の森公園と海岸公園の並びでいくと、デイキャンプ場は有料になると考えられる。また、テニスコートや野球場は基本的には有料施設になる。運営の時点で詰めていく内容なので、今後検討していきたい。

○米倉委員

- ・多目的広場しか、ふらっと行って遊べる所はないということか。

○事務局（佐々木課長）

- ・そうなる。野球場などの有料施設は、受益者負担をしていただき、整備費・管理費を捻出して少しレベルの高い施設整備をするということになる。

○米倉委員

- ・多目的広場も有料で借りられてしまうこともあるのか。

○事務局（佐々木課長）

- ・多目的広場は、有料施設ということにはならないが、例えば、全部を貸し切って大きなイベントをする時には、占用許可という別の仕組みがある。そういう場合が年に何回か出てくるかもしれない。

○小嶋委員

- ・駐車場など人工的な場所に植える樹木、多目的広場のような芝生地に植える樹木、法面の樹林地など、今後10年20年後のそれぞれの樹木を考えると土壌の話が重要である。面的に土壌を改良する、改良の深さをとる、水勾配を3%以上とるなど、基本をしっかりした上で計画を立てれば、良好な林になると思う。

○涌井会長

- ・今日の意見を参考にしながら、次の段階に進んでいくこととなると思うが、三つだけ意見を申し上げる。
- ・一点目は、なぜ水族館なのかということについて、地主としての立場からきちんと市民に説明ができるような位置付けが必要である。仙台港との関係、海との兼ね合いの中での意味付け

をもう少し明確にする必要がある。

- ・二点目は、水族館とか動物園は必ず子供たちにストレスを生むので、水景施設をできるだけ子供たちのストレスを回避するものにしてほしい。またそれに関係して、手洗い場や着替えの場が必要になることも念頭に置いてほしい。
- ・三点目は、避難のために、東部道路にすり付けるという計画は非常に良いと思うが、東部道路との兼合いで、避難がスムーズに行なわれるような配慮をしっかりとってほしい。
- ・さらに、駐車場の出入口を一緒にしているから、必ず交通渋滞が起きる。一定の距離があった方が望ましい。
- ・これらのことを前向きに受止め、各委員の意見をしっかりと反映することをお願いする。

#### 4. 閉会

○事務局（武者課長）

- ・本日の審議会は閉会とする。